

令和4年度 重点目標	具体的内容等	具体的取組事項	評価指標	アンケート			自己評価	次年度に向けての改善方針	学校関係者評価	
				生徒	保護者	教職員			評価	意見
1 授業や検定試験対策の充実	・わかりやすい授業を展開して、生徒の基礎学力を向上させたか・検定試験対策を適切に実施し、効果を上げたか。	・学び直し教材を有効活用 ・家庭学習定着のための適切な課題や宿題の奨励 ・各種小テストでの基礎学力の向上 ・家庭学習時間調査の確実な実施 ・検定の個別受験時の支援体制	評価アンケート 家庭学習時間調査	A	A	B	①教科担任によるタブレットの使用などICT活用の分かりやすい授業に取り組み、毎日の家庭学習時間調査や各教科からの課題はClassroomを活用した。 ②コロナ禍にあっても、検定試験対策のための補習をICTも活用して実施し、効果を上げた。 ③全商上級資格の合格者数は昨年度に比べ、検定試験の改定で出題傾向が変り、一部の検定試験の合格者は減少したが、3年生を中心に資格取得に対する意識が高くなった。	①生徒の家庭学習への取り組みへの工夫を行う。 ②次年度は2年生までが新教育課程となるので、引き続き観点別評価の深化をはかる。 ③授業互見による教員の授業力向上とICT活用による授業力向上を目指す。 ④日々の知識技術の定着を図りながら、全商資格の上級資格取得への意識付けを行う。高度資格については一部の生徒だけではなく、クラス全体や特別補習などを計画的に実施するなどの体制を整える。	A	しっかりと定期試験や検定試験等に臨んでいる生徒がおり評価する。しかし、家庭学習の習慣がついていない生徒に対しての対策はどのように行っているか。 【学校側回答】*科目によっては端末を通じて毎日の宿題や週末の課題を出している。*放課後に学習会を開くなどを考えている。
2 主体的に行動できる生徒の育成	・教育の様々な場面を活用して、生徒の主体的な行動を引き出すことができたか。	・生徒会の主体的活動への支援 ・部活動に対する意識の向上と支援	評価アンケート 出席率 部活動加入率	A	A	B	①生徒部・学年部その他関連部署と連携し、学園祭・球技大会や生徒会活動などで、生徒が活発に活動する姿をよく見るようになった。 ②浜商パート、IT人材育成事業や探究活動において地元の人材や資源を活用して主体的に活動した。	①生徒会（委員会活動）への支援を強化する。 ②生徒の部活動、学校行事等の情報を発信して、取組みへの意欲を引き出す。身だしなみ、ビジネスマナーそして特別活動を充実させるため教職員との連携を強化する。 ③授業担当者や連携を密にして、生徒一人一人に目的意識を持たせるよう努める。	A	部活動は勝利至上主義にならないこと。また、他校との合同チームになっても生徒自身の力が発揮できるように支援してほしい。 生徒の主体的な活動が「HP」や「浜商トピックス」をとおして情報発信できている。
3 生徒の人権意識の高揚	・人権・同和教育を充実させ、人権意識を高めることができたか。	・生徒意識調査を活用しての実態把握 ・人権・同和教育LHRの充実 ・差別に対する実践的態様の育成	評価アンケート 生徒意識調査	A	C	B	①生徒意識調査の内容を吟味し、電子入力した結果を担当等が迅速に見て対処できるような方法にした。各学年部とも担任・副担任と学年主任とが連携し、いじめの未然防止や早期対応に取り組んだ。 ②生徒の「安全・安心」な学校生活を保障するために諸問題に対してできるかぎり迅速に対応してきた。 ③諸行事をとおして「他人を尊重」した活動ができる生徒を育成するための指導機会を設けたが、継続的・横断的な指導に至らなかった。	①早急に動ける体制づくりは整ったが、人権に関する問題は早急に対処することが肝要であるので、引き続き、校内全体での人権教育を推し進めていく。 ②「他人を尊重」できる生徒の育成に向け、諸行事ならびに学校生活で継続的、横断的な指導機会を設ける。 ③来年度R5～R6にかけて、人権教育実践モデル校に指定され、今まで以上に生徒1人1人を大切に、困り感を持つ生徒に適切な支援が行き届くよう取り組む。 ④さわやかステージ等お知らせしたい文書が保護者に届くよう、電子媒体を活用するなど工夫する。	B	「さわやかステージ」や「HR」で人権・同和教育を行っても保護者までその活動が伝わっていない。 【学校側回答】*令和5年・6年度は人権教育モデル校事業に指定されたのを契機にPTAと連携して活動し、保護者に周知していく。 自己肯定感を持っていない生徒がいる。自他の違いを認め、人権意識の高揚に努めてほしい。
4 進路実現の支援	・生徒面談等を通して生徒理解や個に応じた進路支援に努めているか。	・補習、各種模試、小論文指導、面接指導の効果的な実施 ・ハローワーク、支援センター、行政機関、就労・進学先等との連携 ・進路志望調査に基づく企業訪問、求人開拓、学校訪問の推進	評価アンケート	A	B	A	①進学や就職に向けての補習や面接指導を通して、3年生は自己理解を大いに深め、成長した様子が見られた。 ②全教職員の指導のもと、四年制大学や公務員、民間就職等、生徒の進路希望に沿った進路実現を概ね果たすことができた。 ③学力テスト、一般常識テストについて、生徒の意欲向上に向けての取り組みに課題が残った。 ④「書いて考える」（小論文講座・模試）を新たに実施した。講座の内容、実施後の活用方法については改善の余地があるが、継続して実施する。 ⑤地元企業セミナーや地元企業見学等の行事が、県内就職者の確保へつながった。	①学年部と情報交換の場を頻回に持つ。 ②時期に応じた進路指導ができるよう体制を見直す。 ③個別のサポートが必要な生徒について早期に取り組みを始める。 ④年2回実施される学力テストに関連して、教員向け研修会を企画する。 ⑤オンライン講義ではなく、なるべく対面での講義とする。国語科と連携して小論文指導に役立てる。	A	3年生の進路はほぼ第一志望で決まっているとのことで、保護者は感謝していると思う。 1年生からの企業見学は良い取り組みである。 3年生の保護者は進路指導の実感はお持ちであるが、1・2年生の保護者にも理解していただけるようにすれば良いと思う。
5 積極的な情報発信	・ホームページを充実させることができたか。	・ホームページのリニューアル ・浜商トピックスの発行 ・PTA会誌の充実を図る ・生徒募集に繋がる魅力化事業の一環として、浜田市役所や県大との連携・交流	評価アンケート	A	A	A	①HPの随時更新・e-メッセージを活用し、生徒と保護者に正確で迅速な情報発信に努めた。 ②「浜商トピックス」を、中学生だけでなく保護者や地域にも発行し、情報発信の拡充に努めた。	①HPを随時更新し、行事等が魅力的な情報として発信できるように工夫する。 ②ホームページや「浜商トピックス」掲載の記事となるデータ・文章などを部活動、分掌、学年部などから積極的に収集する。 ③HPの更新手続きを見直し、より迅速に情報発信ができるように努める。	A	浜商の魅力「学校案内」「HP」「浜商トピックス」を使用して上手に情報発信できた。中学生にとって魅力に感じられたことが志願者増加につながった。
6 安全指導と危機管理	・適切な安全指導や危機管理を行うことができたか。	・防災避難訓練の実施 ・安全点検の実施 ・救急法研修の実施 ・保健だよりの発行 ・スクールカウンセラーの活用 ・ゴミの減量化	評価アンケート	A	A	A	①消防署と連携をとって防災避難訓練を実施し、生徒へ初期消火の重要性を考えさせた。安全点検を実施、また、生徒に非常食を配付して非常時への備えの重要性を考えさせ、危機管理意識の向上に取り組んだ。 ②安全点検の時期を早めに設定し、事務部と協力して環境改善に努めた。消防署による救急法講習を3年ぶりに開催できた。 ③破損等の小規模修繕は迅速に対応した。漏水も今年度2か所発生したが、早期対応することができた。	①安全指導を学期に1回（計3回）実施し、そのうち1回は消防署主導で消火訓練を行い、生徒・教職員の防災意識が高められるように啓発活動を進める。 ②感染症予防については、手洗いや換気など基本的な予防を続け、自他の健康を守る意識を常に持ち続けるよう生徒に呼びかける。 ③施設の老朽化が著しく、修繕の必要な箇所はまだ多く残っているため、大規模修繕について引き続き積極的に予算要求していく。小規模修繕も、必要性、緊急性を勘案しながら進めていく。	A	防災避難訓練は何を想定して実施しているか。 【学校側回答】*1学期は火災、2学期は地震・津波、3学期は火災で訓練している。 災害のみならず盗撮に対する危機管理も必要である。また、来年度は自転車通学者にヘルメット着用努力義務について周知しなければならない。
7 キャリア教育の推進	・キャリア教育について理解を深め、その視点に立った指導を展開してきたか。	・地域行事への積極的参加 ・浜商パート等の販売実習の充実 ・課題研究の充実 ・キャリア・パスポートの活用	評価アンケート	A	A	B	①「浜商3つ（進路・ビジネス・学び）のWeek」と「課題研究（探究活動）」および「IT人材育成事業」をとおして、キャリア発達の効果的な支援ができた。 ②3年ぶりに通常開催することになった浜商パートは約1,500名の来場者をお迎えし、生徒のキャリア発達のための有意義な活動になった。	①学びを人生や社会に生かそうとする力を培うキャリア教育を推進していきたい。そのためにはビジネスマナーの指導や検定指導など様々な活動をとおし、地域社会から求められる人間力の育成に努める。 ②次年度も先端機器を授業、学校行事、魅力発信に活用し、更に活用方法を模索する。	A	HAMADA教育魅力化フェスタなどに積極的に参加して地域の方々に成果物を紹介して評価を得ている。授業で商品開発したパンなどを定期販売などしたらどうか。商品化は生徒の自信につながる。 長浜まちづくりセンターを開放しているので試験期間中の学習で利用が可能である。
総合的に見て、本校に入学して良かったと思いますか。				A	A	A	浜商パート、IT人材育成事業や探究活動など商業高校らしい特色に高い評価を得た。	ICTなど先端技術の活用だけでなく商業教育の基本である礼法指導も徹底指導していく。	A	生徒・保護者とも多くが”総合的に入学して、入学させて良かった”と回答している。